

指導部だより

指導部高等学校教育指導課 課務担当係長 横田雅博

東京都高等学校数学教育研究会（以下、都教研）の会報が 10 年来ぶりに復活しましたことを、都教育委員会として心からお喜び申し上げます。

中央教育審議会は、平成 25 年 4 月 25 日の第 85 回総会において、「第 2 期教育振興基本計画について（答申）」を取りまとめました。ここでは、今後 5 年間に実施すべき教育上の方策「四つの基本的方向性に基づく、8 の成果目標と 30 の基本政策」を示しました。成果目標 1 「生きる力の確実な育成」に対する施策 1-1 として「新学習指導要領の着実な実施とフォローアップ等」を挙げております。ここで挙げた新学習指導要領の着実な実施とは、平成 25 年 4 月 1 日の文部科学省からの通知に次のように示されています。

「生徒に知・徳・体のバランスのとれた『生きる力』を育むことを目指すものであり、『確かな学力』として、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことを重視するものである。」特に、「言語活動が論理や思考などの知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤となるものであり、生徒の思考力・判断力・表現力等を育むために有効な手段である」としてあります。

数学については、平成 24 年度から新学習指導要領が先行実施されています。数学の授業で言語活動はどの様に取り入れられているのでしょうか。例えば、考えを深める場面でペアになって意見を交換したり、発表の場面で生徒自身が説明したりすることが考えられます。都教研の皆さまには、言語活動を通じた効果的な指導の在り方の研究を進めていただき、実践事例を全国に向けて発信していただきたいと考えています。

都教育委員会では、今年度の教育研究員高校部会の研究テーマを「思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を活性化させる学習評価の在り方」としました。難しい研究テーマですが、どのような学習活動・言語活動・学習評価を行えば生徒が変容するのか、研究を進めていきます。研究発表の際には、広く皆さまから御教示を頂けたらと思います。

また、国に先駆けて、「各学校が具体的な学習目標を明示し、生徒の学力を正確に把握し、繰り返し指導することで学力を確実に定着させる」ものとして「都立高校学力スタンダード」を平成 26 年度より全校実施することにしてあります。今年度の研究開発委員会では、「都立高校学力スタンダード」の「学び直し」の到達目標及び修得すべき学力の基準を明確にする研究を行います。更に都立高校学力スタンダード作成委員会の数学作業部会では、数学Ⅱの 3 段階目標の策定、平成 25 年度版学力スタンダードの精査・改訂、研究開発委員会で研究される「学び直し」指導目標案の検討、調査問題の素材検討等を行います。「都立高校学力スタンダード」の策定の意義を御理解いただき、都立高校生の学力の向上に取り組んでいただくようお願いいたします。

都教研の皆さまには、今後の国の動向にも注視しつつ、授業に根付いた実践的な取り組みを重ね、数学教育の充実にご尽力いただくことを期待しております。

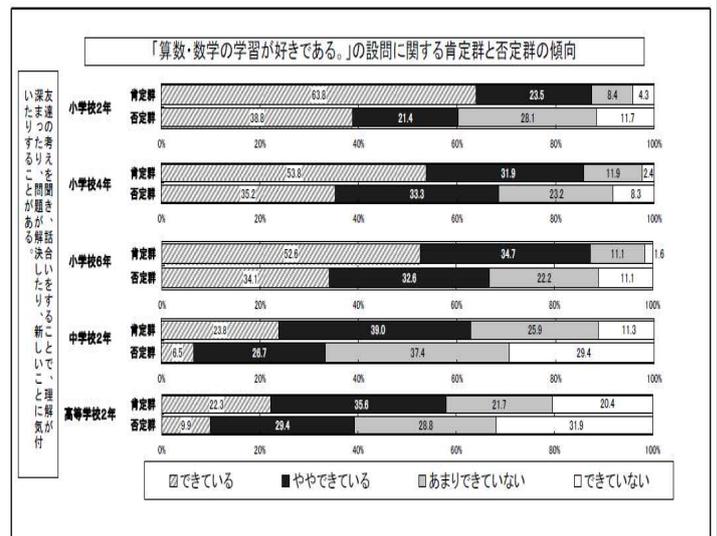
東京都教職員研修センターだより

研修部教育経営課 統括指導主事 板澤健一

東京都教職員研修センターでは、昨年度から教科基礎調査研究を行っています。この調査研究は、国語、社会、算数・数学、理科、外国語の 5 教科を対象とし、「生きる力を育む教科指導の研究～確かな学力の定着と伸長を図るための継続的な教科指導の在り方～」という共通主題の下、各教科がそれぞれ研究主題を設定して進めているものです。

算数・数学では、「事象を数理的に考察し、表現・判断する力を育成するための系統的な指導の在り方」を研究主題とし、これからの社会に求められる算数・数学教育の在り方を研究しています。昨年度の調査研究を通して、明らかになった課題を紹介いたします。

下図は、都内公立小・中・高等学校の児童・生徒に対する調査の中で、「算数・数学の学習が好きである」と「友達の考えを聞き、話し合いをすることで、理解が深まったり、問題が解決したり、新しいことに気付いたりすることがある」の問いをクロス集計したものです。



小学校では「算数の学習が好きである」について肯定的な回答をした児童の 80%以上、否定的な回答をした児童の 60%以上が、話し合い活動の有効性を挙げています。話し合い活動について多くの児童が、学習に関しての意義を感じていることが分かります。

中学校・高等学校では、「数学の学習が好きである」について肯定的な回答をした生徒の中で、話し合いが有効であると感じている生徒は、両校種ともに 50%を超えています。話し合いの中から新しい考えに気付く楽しさを感じられることが、「数学の学習が好きである」という回答に結び付いていると読み取れます。一方で、「数学の学習が好きである」について否定的な回答をした生徒は、30%～40%程度しか話し合いの有効性を感じられていないことが分かります。話し合いの仕方を一層工夫し、自己の考えを深め、新しい発見を生み出す楽しさを味わうことが必要であると考えられます。

これからの児童・生徒に求められる力を踏まえ、小学校、中学校、高等学校の系統性から、算数・数学の指導の在り方を皆さんと考えていきたいと思ひます。